

学校だより



学校だより 8月号
令和2年7月31日
発行者 外日角小学校
TEL 283-0040

「百聞は一見に如かず」→「百幸は一皇に如かず」

校長 稲垣 一郎

学校教育においては、動画配信やパソコンを活用しての授業が全国で頻繁に実施されるようになってきました。便利で、良いものはどんどん活用すべきですが、少し考えていかなければいけないこともあります。それは、実体験の重要性です。

外日角小では、校区見学や校区探検、地域の方々との交流やゲストティーチャーの招聘、昆虫や野菜・花を育てる活動など積極的に行われています。実に素晴らしいことであると私は感じています。段取りや準備にかかる時間のことを考えると、実施に悩むこともあります。子ども達の目の輝きややる気いっぱいの姿、学習に対する主体的な姿を目にすると、やってよかったと感じることも多くあります。

「百聞は一見に如かず」という言葉や意味は皆さんもご存じだと思いますが、その続きがあることを私はつい最近知りました。

百聞は一見に如かず →百見は一考に如かず →百考は一行に如かず
→百行は一果(効)に如かず →百果(効)は一幸に如かず →百幸は一皇に如かず

聞くだけでなく、実際に見てみないとわからないよ→見るだけでなく、考えないと意味がないよ→考えるだけでなく、行動することが大切だよ→行動するだけでなく、成果を出さなければならないよ→成果をあげるだけでなく、それが幸せや喜びにつながらなければならないよ→自分だけでなく、みんなの幸せを考えることが大事であるよ。という意味だそうです。

何度聞くよりも実際に目で見ることの方が大事で、目で見ることで初めてわかることはたくさんあります。でも、見るだけで終わってしまえば何も得るものはあまりないでしょう。しっかりと見て、考えて理解していくことが大切だと思います。また、そうしていくことが、これからの学校教育ではより重視していかなくてはならないと思います。例えば、素晴らしい授業をする先生がいると聞いたとします。聞くだけで、実際に授業を参観してすごいなと思って終わりだと何の利益もありません。むしろ時間を無駄にしまったくらいです。そこで、しっかりと吸収して授業の内容を理解し、じっくりと考えて自分だったらどうできるかを考える大事です。理解し考えることができたなら、実際に行動に移してみます。理論上は素晴らしい方法が思いついても、実行できなければ何の役にも立ちませんよね。行動に起こすことで新しいものを生み出すことができます。そのことの繰り返しが、子ども達の主体的な学びを育てていくことに繋がっていくのだと信じています。

3年生は、理科の学習でモンシロチョウを育てていました。昨年度から育てていたキャベツは、時期が過ぎてしまい学習には役立ちませんでした。ここであきらめて、ビデオや教科書で学ぶことも可能でしたが、担当の先生は、新しい畑にもう一度キャベツの苗を植えて育て、そこに産み付けられた卵を3年生の子ども達と一緒に観察をし、育てていました。子ども達は、教室に置かれた幼虫やさなぎを毎日観察し、目を輝かせながら話をしてくれる子もいました。「先生、この幼虫のさなぎは今日の昼になったよ。」「この幼虫、この場所からずっと動かなくなったから、今からきっとさなぎになるよ。」「2週間くらいで羽化すると思う。」「早く蝶にならんかなあー。」と、びっくりするくらいよく観察をし、考えて、新しい命の誕生を楽しみにしていることが伝わってきました。事前の準備や毎日の世話は大変ですが、学びの場を子ども達にしっかり提供すれば、子ども達は自然と主体的に学んでいくのだと感じました。この学びは、動画配信やパソコンを通しての授業では、なかなか学ぶことはできません。私たち教職員は、動画配信やパソコンの便利で効率的な活用とともに、体験・経験による学習も、意図的に取り入れていかなくてはならないと考えます。

8月8日から18日まで夏休みとなります。短い期間ではありますが、有意義な時間を過ごしてほしいと思っています。また、コロナウイルス感染が早く収束するよう願っております。

